

さいわい結核通信

2022

編集・発行

幸区役所地域まもり支援センター
衛生課感染症対策係

(川崎市保健所幸支所)

令和4年7月発行



日ごろから結核対策業務にご理解ご協力いただき誠にありがとうございます。
医療の発展に加え、患者さんの治療を支える皆さまの服薬確認支援（DOTS）へのご協力により、結核患者数・死亡数は減少しています。しかし、戦後の結核流行期に感染した方が、加齢や他の疾患によって免疫力が低下し、結核を発病する場合があります。2020年には全国で12,739名が新規患者として登録され、1,909名の方が命を落としています。

さいわい結核通信では、最近の結核に関する情報と幸区内の結核の現状をお届けいたします。

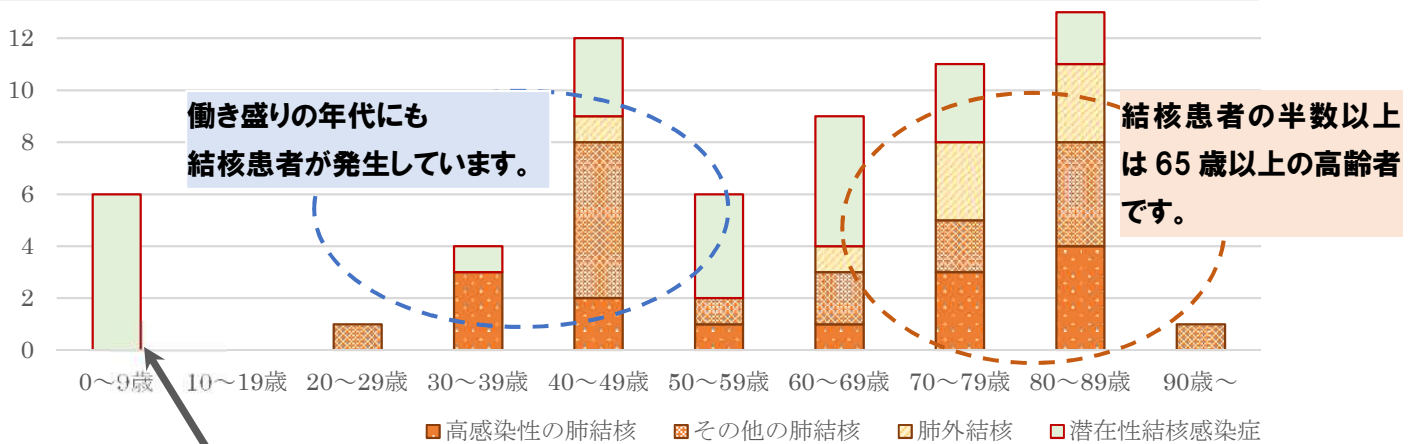
幸区の現状について

平成31年4月から令和4年3月の三年間で、幸区内で発生した結核患者の53.8%は65歳以上の高齢者でした。全国の統計をみても、新規発生患者のうち高齢者の占める割合が高い傾向にあります。厚生労働省が発表した令和2年中の全国新規登録結核患者のうち、65歳以上の占める割合は68.5%でした。

一方、川崎市内では40～50歳代を中心とした「働き盛りの世代」にも多数の新規結核患者が発生しており、この年代の結核患者は全国平均と比較して高くなっています。幸区内でも40歳代を中心に結核患者の発生が報告されています。

過去に結核菌に感染しており、加齢による免疫力低下等で発症した高齢者の方が高感染性結核であったことから、同居の家族や定期訪問を行っていた介護職員が感染し、潜在性結核感染症として予防内服を開始するケースもありました。

幸区内で発生した結核患者・潜在性結核感染者数（年代別・H31年度～R3年度計）



働き盛りの年代にも
結核患者が発生しています。

結核患者の半数以上
は65歳以上の高齢者
です。

高感染性結核患者との接触やコソホ現象で、
予防的に内服治療を開始した子どももいました。
6名全員が未就学児でした。



結核の統計や結核対策に関する
最新情報は、インターネットから
ご覧いただけます。



感染症情報【結核】
(厚生省 HP)



結核について
(川崎市 HP)

事例紹介 ～わかりにくい高齢者の結核～

Aさん



Aさんは幸区内に住む 70 歳代の男性です。
既往歴に高血圧・糖尿病があり、月に 1 回かかりつけの医療機関を受診して
いました。Aさんは主治医にこのような相談をしました。

…ああ、そういえば、最近、以前よりも痰が増えたような気がします。
新型コロナが心配で熱も測っているけど平熱です。咳もないですし…
少し食欲が落ちたかもしれません。夏バテのせいかなぁ。

主治医はAさんに精密検査をすすめ、Aさんも同意したことから、すぐに地域の大きなB病院
に転院しました。胸部レントゲン検査やCT検査を実施した結果、肺に陰影を認めました。

「肺がんかもしれません。経過をみていきましょう。」と言われ、3か月後、6か月後に受診をし
ましたが、肺がんの確定診断には至りませんでした。

そこで、喀痰検査をしたところ、結核菌喀痰塗抹陽性（2+）とわかり
高感染性の肺結核と診断され、8週間の入院と9か月の服薬治療を行いました。
症状出現から診断まで、約1年かかりました。

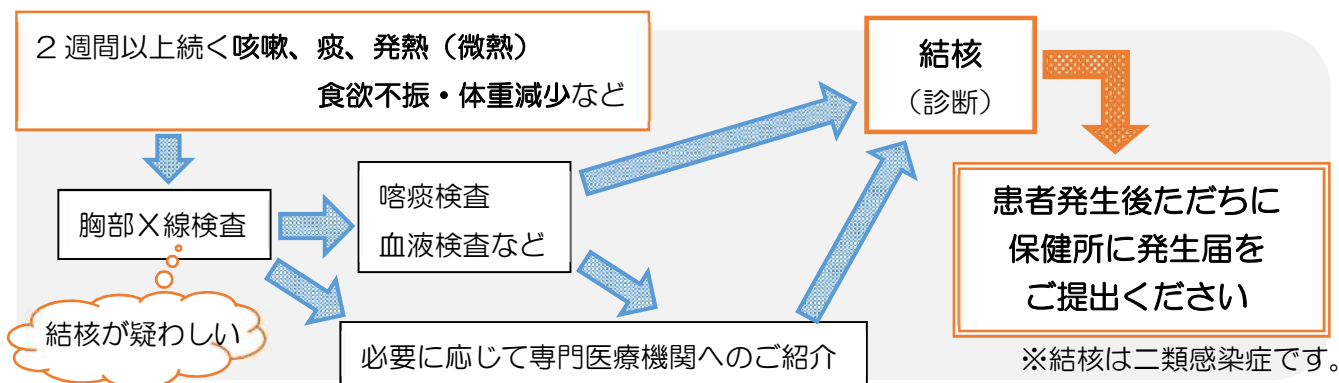
Aさんの症状が出て診断されるまでの期間（感染性期間）に接触が
あった家族、友人等11名が接触者健診の対象となり、発病者1名、
感染者1名という結果になりました。



Aさんの症状は痰や食欲不振のみで特徴的な症状に乏しく、診断の難しい事例でした。

このようなケースのほか、「細菌性肺炎だと思ったら結核だった」「気管支喘息だと思ったら結核
だった」というケースが、市内全体で年に数件報告されています。

**2週間以上咳や痰が続く患者が受診した場合は、結核も疑い、
X線検査・喀痰検査を積極的に考慮してください！！**



地域DOTSを行っています



幸区役所衛生課では、主治医の先生をはじめとする医療機関等の方々にご協力いただき、
地域で生活する結核患者様の療養支援を行っています。

患者の状況にあわせて、定期的に電話や面接、訪問等で服薬確認や体調の相談をお受けし
ています。

今後とも結核対策事業にご理解ご協力をお願いいたします。

幸区役所衛生課 電話 044 (556) 6682 FAX 044 (556) 6659

[平日 8:30~17:00] ※感染症発生届は 24 時間受付